

平成27年度学術情報リテラシー教育担当者研修  
グループ討議成果物

# これからの「評価」の話をしよう

学生により良い学術情報リテラシー教育を提供するためには

テーマ： a マネジメント / 1班

発表日：2015/11/20  
会場：国立情報学研究所

# 現 状

- リテラシー教育後に満足度を問うアンケートを取っているが、実際にどれだけの教育効果があったのかわからない
- そもそもアンケートも取ってない
- 執行部には、講習会件数や参加人数、アンケート結果の報告しかしておらず、リテラシー教育の理解が得られない
- 図書館職員の人手も足りず、また時間もない
- 図書館職員がおこなうリテラシー教育内容について、図書館の中でも意見が割れる(どこまでが図書館のおこなう教育か?)

# 私たちの問題意識

- 既存のアンケート(満足度を計るもの)では、学生のアウトカムに結びついているのか不透明
  - ⇒教育内容の評価の見直しが必要
- 図書館職員がおこなっているリテラシー教育の成果が見えにくく、執行部に評価されない
  - ⇒図書館の事業評価を上げるための取り組みが必要

# 教育内容の評価方法の提案1

## アンケート項目を見直す

開催時期や講習会内容の満足度を問うだけでなく、「今回の講習会で新たに学んだこと」を具体的に問うなど、ニーズや学習効果を把握できるような質問項目にする

## リテラシー教育前にも小テストを実施する

教育後だけでなく、教育前にもテストを実施し、習熟度を比較する

## 図書館職員によるリテラシー教育を教員にも評価してもらう

# 教育内容の評価方法の提案2

## ルーブリックを作る①

- ・図書館ごとにルーブリックを作成することで、館ごとにリテラシー教育の共通認識を持つことができる
- ・作成した講習会資料が教育目標に達成しているかどうか判断することができる

# 教育内容の評価方法の提案3

## ルーブリックを作る②

- ・リテラシー教育の前後に、ルーブリックを学生に配布、チェックしてもらうことで、学生自身がどこまで伸びたか自己評価することができる
  - 講習会当日に事前チェック、事後チェック(自分自身の“できた”を実感)
  - テストではないので、名前は書かせない
  - ルーブリックは回収し、図書館のリテラシー教育改善に使う
  - 半年に1回など、業務評価(実績)として執行部に提出することができる
- ・ルーブリックを活用することで、三者(図書館職員、教員、学生)それぞれの認識を確認することができる

# 作成したルーブリック

		レベル1	レベル2	レベル3
情報探索	情報の種類や特徴について	図書、雑誌、新聞、インターネット等それぞれの情報の特性を説明できる	適切な情報収集の方法を選択することができ、課題に対し、どの資料を使えばいいかわかる	情報収集の方針を適宜見直し、効果的な探索を図れる
	情報へのアクセス方法	蔵書検索システム(OPAC)で図書、雑誌を検索することができる	各種データベースを活用し、文献を検索することができる	
	検索用語について	適切な検索キーワードが選べる	上位語・下位語、同義語・類義語・関連語を理解し、キーワードを言い換えることができる	論理演算子(AND・OR・NOT)を使うことができる
情報入手				
情報管理				
情報発信	集めた学術情報をもとにレポートを書く	レポートがどのような形式で書くものかを知っている	序論・本論・結論の形式で実際にレポートを書いている	引用と剽窃の違いを理解し、適切に引用することができる

# ルーブリック(一部拡大)

	レベル1	レベル2	レベル3
情報の種類や特徴について	図書、雑誌、新聞インターネット等、それぞれの情報の特性を説明できる	適切な情報収集の方法を選択することができ、課題に対し、どの資料を使えばいいかわかる	情報収集の方針を適宜見直し、効果的な探索を図れる



# これらの評価でねらえる効果

- 単なる数値の報告だけでない、評価結果を示すことができる
- 学生の自己評価にも役立つ
- 教員に、図書館がおこなうリテラシー教育を理解してもらえる
- 事務管理部門(人事、カネを持っているところ)にも図書館のリテラシー教育を理解してもらえる